

# しえんかいぎ

衝動

社会とつながる

支援

支援会議とは、当事者の希望や生活のしづらさを改善する支援策を、本人・家族・関係者（相談支援事業者、市役所、県、障害福祉サービス事業者、民生委員、学校、病院）と協議する場です。

アルス・ノヴァの支援会議では、課題解決のための「本人の変化」の促し方や他のサービス利用などの手立てなど、通常の「支援」を探る一方で、障害のある当事者が「居ること」で「周りが変わる」、「周囲が動き始める」と「スタッフ自身の衝動」も同じ「支援」として議論しています。

今回開催する「しえんかいぎ」は、アルス・ノヴァで行われている支援会議を顕在化し、レッツ流哲学カフェ「かたりのヴァ」形式で行います。人と人との出会い、時の流れ、関係者が混在しながら生まれるエネルギーや「表現のようなもの」も同じテーブルに上げて議論していくことで、今後の「支援の姿」と「新たなテーマ」が見えてくるはずです。

意味

利用者  
と  
スタッフ

地域  
と  
生活

## スケジュール

〈全て18:00-20:00〉

第1回 1/24(火)

第2回 1/31(火)

第3回 2/7(火)

第4回 2/8(水)

第5回 2/13(月)

感情

表現

## 進行役

西川勝

(臨床哲学者)

精神科病棟で看護師として勤務するかたわら鷺田清一氏のもとで哲学を学び、現在は認知症ケアに関わるコミュニケーションの研究・実践を行う。著書に「ためらいの看護」ほか。



課題  
解決

作業  
と  
余暇

## アドバイザー

現状の「しえん」について視野を広げて考え直すために、各界の専門家をアドバイザーとしてお迎えし、一緒に考え語り合ってください。(参加日未定)

高木誠一

(浜松協働学舎根洗寮 施設長)

比留間雅人

(日本大学非常勤講師)

堀田聡子

(国際医療福祉大学大学院教授)

出会い

## 「かたりのヴァ」とは…

「哲学カフェ」に着想を得て、レッツ流にアレンジしたのが「かたりのヴァ」です。「様々な人たちが共にいること」のできる寛容性のある社会のための土台として、「人の話を聞くこと・話すこと・共にいること」を大事にしています。

自  
立

あなたとわたし

居場所

多数の視点

捉え方の違い

## 「表現未満、」実験結果

2/25(土)15:30-20:00

### 15:30-17:30 事例発表

発表者 石幡愛(としまアートステーション構想事務局長) / 永野香里(フリーランスライター) / 尾張美途(認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ)

5回の「しえんかいぎ」と、スタッフへのヒアリングを通して、そこから見てきた「支援の姿」を報告します。

### 18:00-20:00 カンファレンス

## 「検証!『支援』と『表現未満、』そこからみえること」

ゲスト アサダワタル(アーティスト・社会活動家) / 天田城介(社会学者) / 榎木野衣(美術批評家) / 久保田翠(認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ 代表)

見えてきた「支援の姿」をもとに、「支援」の中にある革新性や、人への丁寧な眼差しなどを通して、それがどのように「表現未満、」に連なっていくのかを議論します。

こ  
だ  
わ  
り

### アサダワタル asada wataru

アーティスト・社会活動家。文筆や音楽などの表現行為を通じて、普段の日常・既存のコミュニティの「あたりまえ」をズラし、世の中にヘンテコで幸せな人間関係をもたらすことに勤しむ。テーマは「表現による謎の世なおし」。博士(学術)。



### 天田城介 amada josuke

社会学者。「老い」や認知症をテーマに研究。著書『<老い衰えゆくこと>の社会学』は第3回日本社会学会奨励賞(著書の部)を受賞。中央大学文学部人文社会科学科社会学専攻教授。



### 榎木野衣 sawaragi noi

美術批評家。昨年の「ひとインレじでんす」でアルス・ノヴァに滞在。近著に『後美術論』(第25回吉田秀和賞)、『アウトサイダー・アート入門』(幻冬舎新書)など。現在、多摩美術大学教授。



### 久保田翠 kubota midori

東京芸術大学大学院修了後、ランドスケープデザインの仕事に従事。長男の出産をきっかけにクリエイティブサポートレッツ設立。2008年たけし文化センター事業スタート。現在、障害福祉施設アルス・ノヴァ、のヴァ公民館を運営。

